

第 25 回 (2019 年) 中国病理学会総会参加報告

11 月 14～17 日に中国河南省鄭州市で開催された第 25 回中国病理学会総会に招聘されました。16 日、中国らしい壮麗な開会式が行われ (写真 1)、中国における病理関係者 (病理医と技師) は着実に増加しており合計 3 万人を超えたとの報告がありました。関係者に伺ったところ、今回の総会では 3000 人余りの事前登録があり、企業関係者が 1000 人以上参加しているとのことでした。企業展示は日本では見たことがない規模で (写真 2)、医療における病理の立ち位置を示しているように感じました。16 日、国際交流セッションで吉野正教授 (岡山大、写真 3) が、人工知能セッションで森一郎教授 (国際医療福祉大) がそれぞれ講演しました。17 日の中日交流セッションでは森教授座長のもと、牛久哲男教授 (東京大) と本間尚子准教授 (東邦大) が発表しました (写真 4)。これら英語で行われたセッションでは、演者ひとりひとりに、それぞれ近い分野の病理医・研究者が同時通訳としてつき (希望者はヘッドホンで聴講)、また中央スクリーン横の大スクリーンに AI サポートによる同時入力字幕が映し出される形で進行していたのが印象的でした。若手では鶴飼翔一院生 (広島大) が出席し優秀ポスター賞を受賞しました。今回の会では中独交流セッションも行われ、ドイツ病理学会からの参加 (招聘) 者が多数ありました。古代殷の都であった鄭州ですが、会場のあった新地区の建設計画は建築家故黒川紀章氏によるもので、夜は美しくライトアップされ幻想的でした (写真 5)。少林寺が近く (といっても約 60km)、プログラムやポスターのデザインにも使われていました。今回参加にあたりお世話になりました中国病理学会関係者の皆様、日本病理学会国際交流委員会小田義直委員長ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



写真 1 開会式の様子

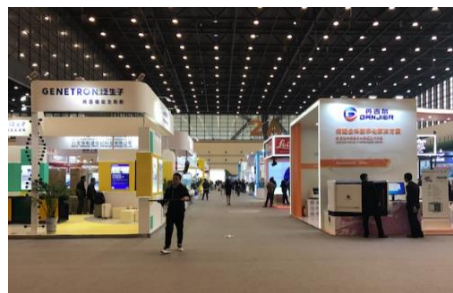


写真 2 企業展示



写真 3 吉野教授 (右) と座長の卡修武教授 (中国科学院)



写真 4 左から本間准教授、会長の歩宏教授 (四川大)、牛久教授、森教授



写真 5 会場付近の夜景

岡山大学医歯薬学総合研究科病理学

吉野 正

東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学分野

牛久 哲男

東邦大学医学部医学科病理学講座

本間 尚子